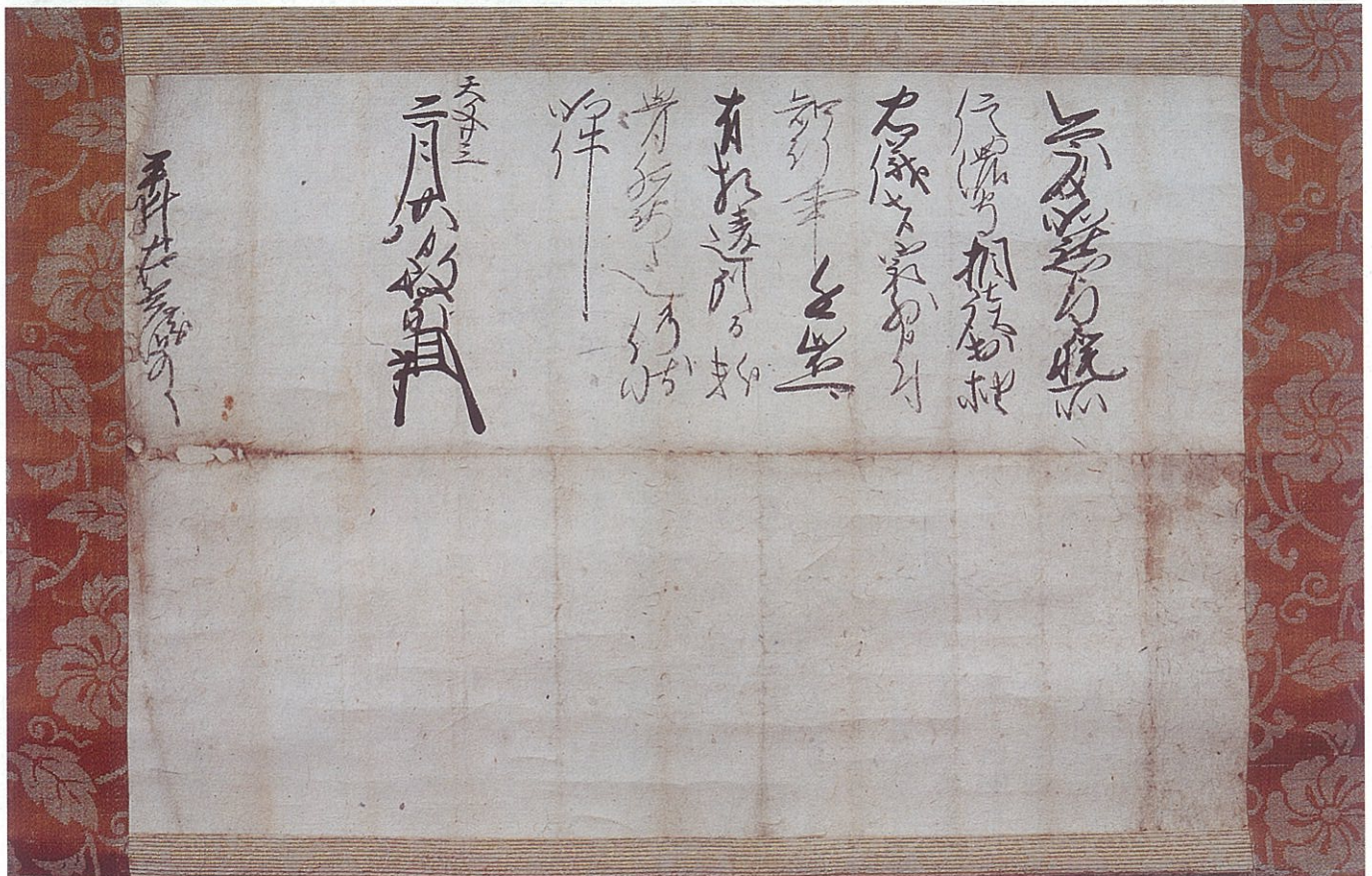


# 岡山県立記録資料館だより

第2号

平成18年9月



## 下克上の世を伝える浦上政宗書状

この書状の差出人である政宗は、赤松氏の宿老であった浦上村宗の子で、のち和気郡天神山城（和気町）を本拠とし備前東部を支配した浦上宗景の兄である浦上政宗のことです。浦上村宗は、享祿四年（一五三一）摂津天王寺の戦いで戦死します。この時まだ幼少であった政宗・宗景兄弟は、成人後、播磨国西部と備前国西部を掌握する政宗と備前国東部を掌握する宗景とに離反し、争うようになります。

一方、宛先の平井右兵衛尉は、平井朝能のことで、上道郡宇治郷と呼ばれていた現在の岡山市平井周辺を本拠としていた武将です。また、文中にある税所信濃守は、税所経卿のことで、上道郡龍ノ口城主（岡山市）税所氏の一族と考えられます。浦上政宗は、税所信濃守経卿や税所豊前守久経ら税所氏を通じて、平井氏ら旭川河口の武将を掌握していたようです。

現在の研究では、天文二十三年（一五五四）ごろに、浦上政宗・宗景兄弟が決別した、と考えられています。この書状には、浦上政宗が平井朝能に対して忠勤を励むならば、最前申し付けた所領を間違いなく安堵すると記されています。兄弟決別の中で、武将の離反を防ごうとした浦上政宗の姿は、まさしく下克上の世の姿を伝えているのです。

〔釈文〕

今度如懇望、税所信濃守相談、於抽忠儀者、最前申付知行事、進止不可有相違、別而粉骨肝要候也、仍状如件、

天文廿三

二月廿八日 政宗（花押）

平井右兵衛尉殿

# 記録資料に見る岡山県 — 教育県岡山と記録資料

在 間 宣 久

私共の岡山県立記録資料館は、ちょうど一年前の平成十七年九月に開館しました。場所は、岡山市南方の元の国立岡山病院跡地です。同じ敷地内には、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館（きらめきプラザ）があります。

先日も「記録資料館とは何をしているところですか？」との質問を頂戴しました。この質問には、「岡山県に関する記録資料Ⅱ公文書・古文書・写真など（総称してアーカイブズ）を収集・保存・整理して、広く公開しているところです。」と答えました。

そこで今回は、最近当館に入った資料の中から、教育に関する二点の資料を紹介して、当館がどのような仕事をしているのか知っていただく一助としたいと思います。

さて、先に当館は元の国立病院跡地に開館したと言いましたが、ではその前は何かあったのでしょうか。ご存じの方も少なくなっただろうのですが、実はこの場所には、岡山県立岡山工業高等学校があったのです。工業高等学校は、明治三十四年に創立、翌三十五年開校の後、昭和三十四年に現在の京山近くの岡山市伊福町に移転するま

で、この地にあったのです。

それを物語る資料として、当館敷地内の東端には同校工友会がたてた「岡山県立工業学校発祥の地」の石碑がありますし、また南東角には「紀年樹第三回卒業生」と刻まれた石碑とイチョウの老木が残されているのです。

これらはいずれも岡山工業高等学校の記念碑なのです。この記念碑に加えて、先般当館へ一枚の写真が、卒業生の石尾博さんから提供されました。

それは、同校の校門および校舎を正面から撮影した写真です。ところが撮影したのが昭和十九年十二月ごろだと言うのですから、これは貴重な一枚です。と言いますのも、同校はその翌年六月の岡山空襲で焼失しているからです。焼失直前の同校の写真であるばかりでなく、どうやらこれと同じ写真は外にはないようなのです。同校が発行した記念誌の写真とも違います。

同校では、戦災後さっそくバラックの校舎を建築して授業を再開、さらに昭和二十四年には市立工業高等学校を統合、同三十二年には伊福町への移転を決定、同三十四年に移転するなどの歴史を刻みます。

つぎに紹介する資料は、「聯合軍最

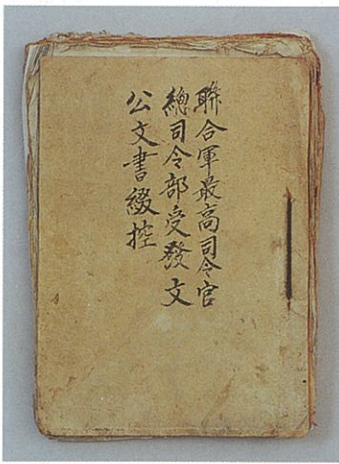
高司令官総司令部受発文公文書綴控」です。これは、岡山県立備作高等学校から提供されたものです。県下の高等学校の再編によって、近年高等学校の統廃合が進められていることは、皆さんご存じのことと思います。当館では、数年前からこの高等学校再編に伴う学校資料の収集を進めてきていました。その活動の中で各地の高等学校からも色々な資料の提供を受けて、現在鋭意整理中です。各校それぞれの資料の残り方ですが、備作高等学校に保存されていた、こうした昭和二十一年から二十三年にかけての、聯合軍関係の資料は外には見あたりません。

内容は、聯合軍から発せられた教育関係指令を受けた県からの公報などに対応して、教育現場がどのように対応したかが分かるものとなっています。例えばその内容をいくつかあげると、終戦二伴フ校内整理二関スル件、武道教練用具ノ処理方法、修身・歴史・地理教授二関スル件、学校ニ於ケル神祇二

関スル教育停止ノ件、国民学校中等学校教科用図書二関スル件、国家神道神社神道ニ対スル政府ノ保証支援保全及監督並ニ弘布ノ禁止二関スル件と言った内容となっています。これらはみな、まさに戦後日本教育の出発となったものであることはお気づきのことでしょうか。

これらの指令の内、国家神道神社神道に関するものでは、岡山県内政部長から昭和二十一年一月に教第七号・教第一五号・教第七九三号などで、地方事務所長・警察署長・市町村長・中等学校長・青年学校長・国民学校長・官国弊社以下神社神職長・県下宗教団体長などにあてての布達が綴じられています。これに次いで、赤磐郡城南青年学校長名の「布達受領書」が続きます。さらには「其趣旨ヲ理解ス」とした職員一同の氏名と押印がある「証明書」が続きます。県を通じた聯合軍の指令は、まさに学校現場の末端にまで通じていたことの証明となるものです。

ここに紹介した二つの資料は、いずれも「教育県岡山」を物語る貴重なものです。これらの資料をよくぞ今日まで保存してくださったものです。まだこれから見つかるであろう記録資料によって、岡山県のことさらさら明らかになっていくことを期待しています。



## 新収蔵資料の紹介

### 公文書

平成十七年度は、廃棄される公文書の中からの選別収集と、当館に管理を移しての収集（移管）によって、新しく収蔵しました。

#### ○廃棄公文書

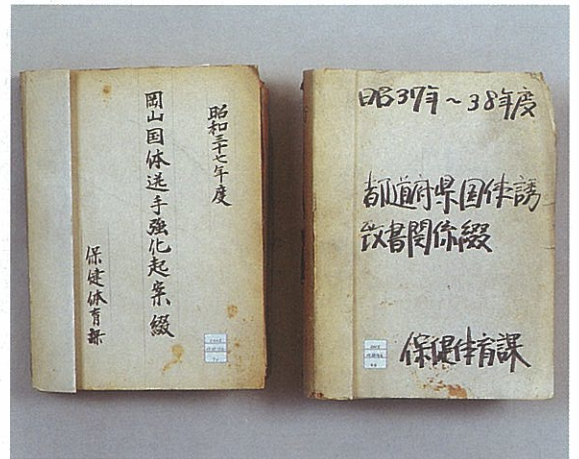
保存年限が経過したものと作成機関の閉鎖によるものがあります。

前者は、本庁知事部局の公文書が主になりますが、備中県民局と高梁支局、教育庁保健体育課、古代吉備文化財センターからも収集しました。

後者は、平成十七年度から本格的に実施される、県立高等学校の再編に伴って閉校になる、成羽・至道・大原・矢掛商業の四校から収集しました。各学校の創立以来の歴史資料として重要なだけでなく、岡山県の教育史にとっても貴重な記録資料となります。

#### ○移管公文書

第六十回国民体育大会・障害者スポーツ大会が終わり、そのために教育庁保健体育課が保存活用していた国体関係の公文書を収蔵しました。これらには、第十七回岡山国体に関係した公文書やポスター原画、メダルなどの記念品が多数含まれています。昭和三十七年に行われた第十七回国体に関する



公文書類は、すでに廃棄されたものと考えられていました。今回これらの資料が移管されたことで、誘致活動や選手の強化の様子など（写真）、当時の岡山県全体の取り組みの様子が鮮明に浮かび上がってきます。

また、公文書ではありませんが、第六十回国民体育大会・障害者スポーツ大会のために県や市町村で作成された刊行物、記念品も収集しました。これらも閲覧や展示などでご覧いただけます。

収集した公文書は、基本的に、事案完結後三〇年経過したものを公開する予定です。現在まだ、その一部しか整理できていませんが、昭和五十年以前以前の公文書は、内容を審査して順次公開していきます。

### 古文書

平成十七年度は、和気郡塩田村延原家資料など一〇件の資料の寄贈を受け、岡山藩士永岡家資料など二五件の資料を購入しました。

また、開館にあわせて、岡山県立図書館で公開されていました古文書などが、当館の所蔵となりました。その中には、戦災でそのほとんどが消失した、明治期の岡山県庁で作成された公文書（写真）も含まれています。未整理の資料が多いのですが、順次公開のための処理を進めています。

資料の概要や整理の終わった資料のデータは、当館ホームページに掲載し

ています。「所蔵資料の検索」画面から、ご覧ください。

### 複製資料

開館後、撮影・製本、及びマイクロフィルムの購入・移管などで収集した複製資料には、つぎのようなものがあります。

#### ○撮影

・「夕刊岡山」（昭和二十一年五月、昭和二十九年十二月）一九巻

岡山日日新聞の前身で、昭和二十一年五月「合同新聞」（「山陽新聞」の前身）の姉妹紙として創刊された夕刊紙。岡山県立図書館所蔵のうち昭和二十九年以前のもの

#### ○製本

・「旧鹿忍町役場資料」三七〇冊

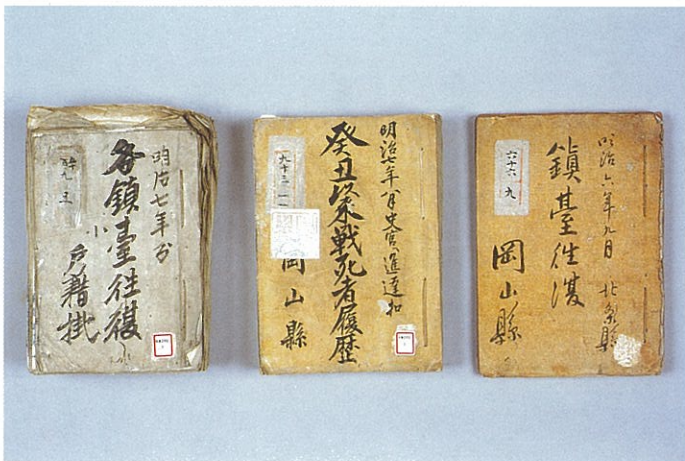
旧牛窓町役場資料（現瀬戸内市）の撮影フィルムから紙焼き製本したものの。複製本化を継続してまいります。

#### ○購入

・「東京大学史料編纂所所蔵大日本維新史料稿本マイクログ集成版」（慶応三年）継続購入予定。

#### ○移管

・「総務学事課県政情報室作成マイクロフィルム」七七四巻  
岡山県統計書など各種統計や行政刊行物を撮影したもの。



# 平成十八年度企画展 「都市化する岡山県の村々」

## 開催期間

平成十八年十月三日（火）～

十一月十二日（日）

## 場所

一階展示コーナー

## 休館日

十月九・十・十六・二十三・三十日

十一月三・六・十日

## 展示内容

岡山県内には、江戸時代に形成された城下町、陣屋町、宿場町、港町などが各所にあります。それぞれが町として発展する契機は様々でした。この企画展では、「都市化する岡山県の村々」をテーマに、1 城下町の形成と広がり、2 村の都市化、3 都市の賑わい、4 近代の都市計画、の四部構成で概観します。おもな内容は次のとおりです。

1 城下町の形成と広がりでは、津山城の築城以前の推定図を示し、その津山城下町の内部や町と在との境界部分に木戸門と番所を設置している図面を展示します。岡山と松山城下町図も展示します。

2 村の都市化では、幕府領陣屋の



倉敷村の拡大過程や一橋領代官陣屋の西江原村（井原市）について見ます。西江原村では、安政三年（一八五六）友山勝次代官が、問屋や商家の誘致計画を立てました。その絵図を展示します。翌年何もなかった街道沿いに五〇軒余りの問屋が集まり、そのために近隣の井原の経済が衰退しました。

3 都市の賑わいでは、江戸時代岡山城下町最大の祭礼であった東照宮祭礼の行列図や、西大寺会陽の図、文明

開化頃の岡山市中の盛況ぶりのわかる図を展示します。また、鉄道をはじめとする交通網の発達わかる山陽道パノラマ図を紹介します。

4 近代の都市計画では、戦前の岡山県内の都市計画指定一覧図や、岡山都市計画街路網地図を展示します。現在の道路網に反映されていることがわかります。そして、戦後高度成長期に推進した岡山県南広域都市建設関係公文書と、福祉計画の中で展開している吉備高原都市計画に関するものを展示します。

この展示を通じて都市とは何か、再考していただけたら幸いです。

なお、この企画展を記念して、江戸時代岡山城下町の祭礼のを中心として都市の政治、文化などについて様々な角度から研究をしている久留島浩氏の講演会を次のとおり開催します。

## 企画展記念講演会

「城下町と祭礼〜岡山の場合〜」

講師 久留島 浩 氏

（国立歴史民俗博物館教授）

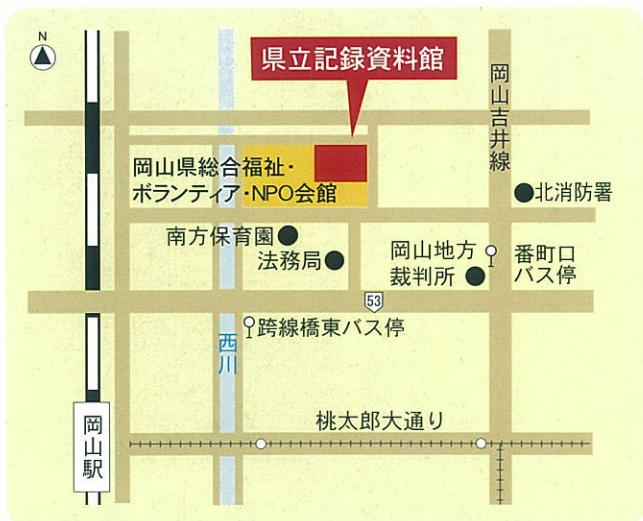
日時 十月七日（土）

午後一時三十分～三時

場所 岡山県立記録資料館の隣

きらめきプラザ 三〇一会議室

定員 二〇〇名 入場料無料



## 岡山県立記録資料館だより

第2号

平成十八年九月三十日発行

編集発行 岡山県立記録資料館

〒七〇〇〇八〇七

岡山市南方二一三一一

電話（〇八六）二二二一七八三八

FAX（〇八六）二二二一七八四二

ホームページ

<http://archives.pref.okayama.jp/>